

Book Fan Newsletter

発行:平成26年3月15日

編集:塩尻市立図書館

0263-53-3365

(Book Fan Newsletter 21号)

書店員が選んだ 今月のおすすめ

『六〇歳から始める小さな仕事』

瀬川 正仁 / 著 バジリコ

セカンドライフを生きる28人のルポタージュを紹介しています。「第2の仕事」の多くは「楽しむこと」を中心にしており、自由度が高く、現実は甘くはないが「仕事」は自己実現の舞台にもなるのだということを再認識してもらえればと結んでいます。

定年になった人ばかりでなく、行き詰まりを感じている若い世代にも参考になる1冊です。

(神田堂 大塚さん)



『人生はニャンとかなる！ 明日に幸福をまねく68の方法』

水野 敬也 / 著 長沼 直樹 / 著 文響社

ベストセラー「人生はワンチャンス！」の待望の猫編です。猫の写真がとてもかわいくてページをめくるのが楽しくなります。まずは写真で癒され、そして人生の大切な言葉に励まされます。裏には偉人のエピソードがあり、言葉をより深く理解することができます。猫の表情と言葉がみごとにぴったりなのも楽しめます。

(興文堂平田店 降旗さん)



『路上のストライカー』

マイケル・ウィリアム / 作 さくまゆみこ / 訳 岩波書店

デオは家族を政府軍に虐殺され、兄のイノセントとともに故郷を離れ南アフリカを目指します。ところがイノセントも殺害されてしまいます。

本書は人種差別、貧困、治安、教育問題などアフリカの抱える厳しい現実を読者に訴えながら、少年たちがサッカーとの出会いの中でお互いの違いや過去を共有し、成長する姿を感動的に描いています。

(中島書店 内藤さん)



『おくりものがたり』

伊藤 まさこ / 著 集英社

松本市在住の伊藤まさこさんの新刊書が届きました。雑誌LEEに連載された、「おくりもの」のコラムに書き下ろしエッセイをプラスした本です。

おくったり、おくられたり。贈り物選びの参考になる話は楽しく、ためになり、心まで温かくなります。表紙にはリボンが描かれていて、そのままのプレゼントのようです。

(中島書店 中島さん)



『深海生物の奇妙な生態 (宝島社新書)』

深海生物研究会 / 編著 宝島社

ダイオウイカやリュウグウノツカイだけじゃない。見たこともないような魚や分類不能の生物まで、奇妙でユーモラスな生物たちの宝庫である深海。

近年、次々と水揚げされている深海生物たちの生態や謎に迫る、写真が満載の一冊です。深海について真剣に考えてみたくなったらぜひ読んでください。(丸文塩尻書店 金子さん)



📖 この面に掲載されている本の紹介は、市内に本店のある4書店にご協力いただいています。📖

■神田堂 (52-1283)

注文品の迅速な手配を心がけており、地元著者の自費出版本など地域とともに活動しております。

■興文堂書店 (97-3949)

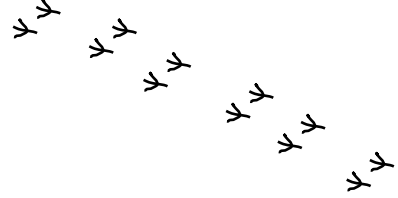
1ダースから注文できる<名入れの鉛筆>が人気です☆店頭で鉛筆を選んで名前をお聞きしたら、注文完了！アイシティのピアピアにて。

■中島書店 (54-3968)

伊那市在住の作家、東朔美さんのデビュー作『ひぐらし神社、営業中』出版記念サイン会。3/22(土)14時~15時半 中島書店にて

■丸文塩尻書店 (52-5515)

限定版図書カード「柴犬」が残りわずかです！プレゼントに！ご自分用に！！お早めにお求めください。



『ぶたぶたのお医者さん（光文社文庫）』

矢崎 存美 / 著 光文社

まれに見るおくびょう猫のモカは飼い主にもなつかず、鋭い爪での流血騒ぎは日常茶飯事。獣医に連れていくことができない家族は、治らなくても仕方ないと、往診を依頼してみました。やって来た獣医の名は『山崎ぶたぶた』。何と、ぶたのぬいぐるみでした。

「ビビリ猫モカ」他2篇を収録。ぶたぶた先生がペットの病気だけでなく、飼い主の悩みも解決します。ぶたぶたシリーズ最新刊。
(文庫担当 伊藤)



『いま読むペロー「昔話」』

工藤 庸子 / 訳・解説 羽鳥書店

ペローは、人生の教訓を示唆し民間伝承として伝えられてきた“昔話”に、色やシンボルを編み、赤ずきんに「赤い」頭巾をかぶせた最初の作者といわれています。

本書は、前半に「サンドリヨン」や「青ひげ」など8つの昔話、後半に訳者による17世紀フランスの様子が見える解説が掲載されています。太陽王の時代、文芸サロンで語られたおそろしくも美しい文章をお楽しみください。
(外国文学担当 北島)

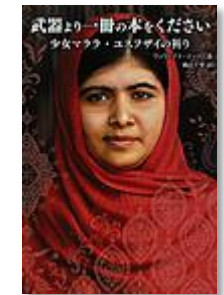


『武器より一冊の本をください 少女マララ・ユスフザイの祈り』

ヴィヴィアナ・マツァ / 著 横山 千里 / 訳 金の星社

2012年10月、「女性には教育を受ける権利を認めない」というタリバンによる圧力がある中、パキスタンで少女マララ・ユスフザイさんが銃撃されました。一命を取りとめたマララさんは、危険や恐怖に負けることなく、今も「本とペンが最も強力な武器である」と世界に訴えています。

(ヤングアダルト担当 中村)



『何のために生まれてきたの？ 希望のありか（100年インタビュー）』

やなせ たかし / 著 PHP研究所

「アンパンマン」はやなせさん自身の戦争体験から誕生しました。戦時中の飢えの苦しみや、東日本大震災復興への思いなどが綴られています。

どんな状況下でも絶望せず一步踏み出すこと、ダメだと思っても根気よくやり続けることの大切さ。「なんのために生まれて なにをして生きるのか」を問い続けてきたやなせさんの人生を振り返ります。

やなせさんが亡くなった年に出版された本です。
(芸術分野担当 林)



第1回 長野県絵本大賞

— 2014年サンジョルディの日 特別企画 —

4月23日は、本と花を贈りあう「サンジョルディの日」です。

この日を記念し、長野県書店商業組合により「長野県絵本大賞」が制定されました。

CLASSIC 部門

プレゼントしたい絵本

CONTEMPORARY 部門

新作絵本

COMMENT 部門

絵本の感想

それぞれの部門に投票・応募ができます。

応募期間：2014年3月1日（土）～4月20日（日）

応募先：市内に本店のある4書店を含む長野県書店商業組合加盟店

発表：2014年4月23日（水）サンジョルディの日

※詳細は別紙チラシをご覧ください。